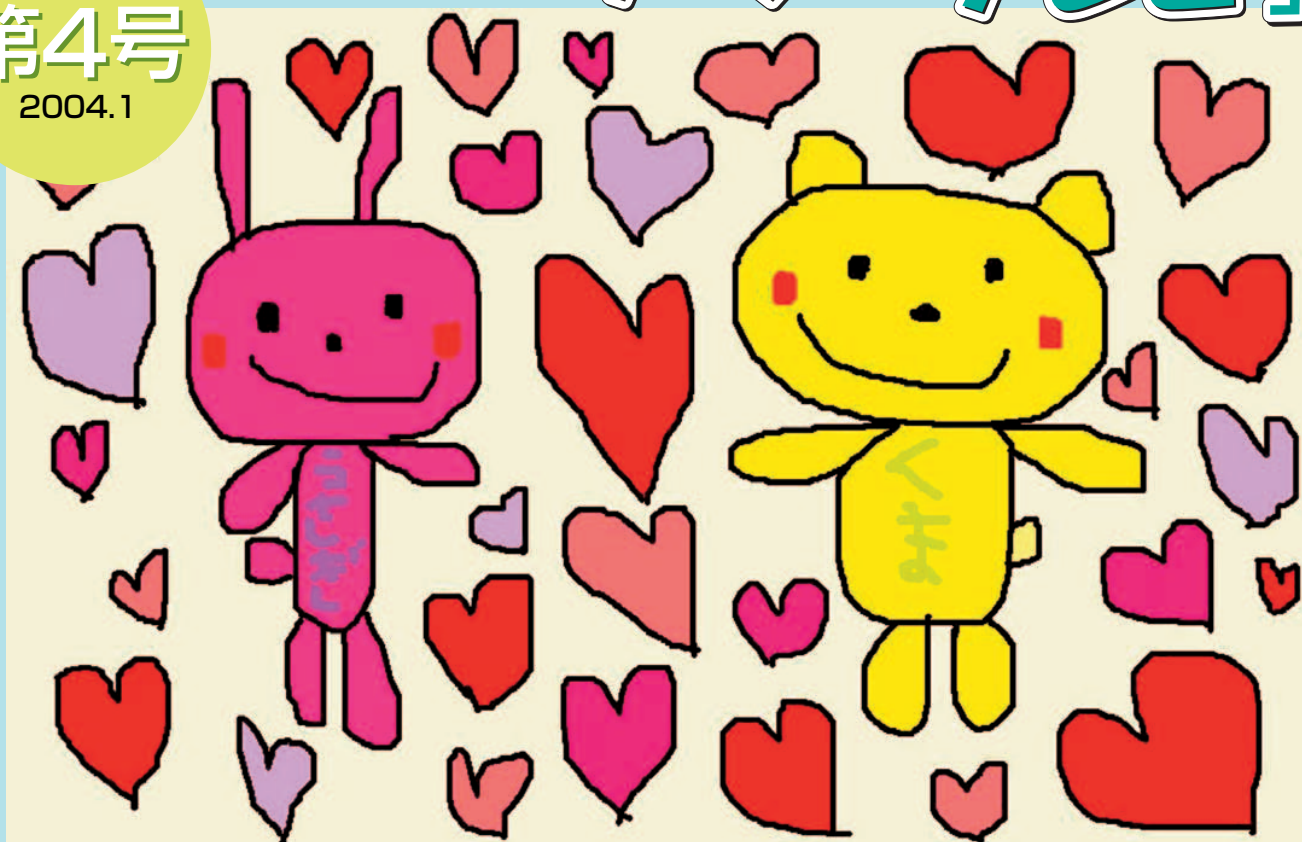


おうち

テーマ：「テレビ」

第4号

2004.1



番組制作の現場から NHK番組制作局青少年こども番組チーフプロデューサー 坂上 浩子さん

アンケートの結果から

論 説 メディアで育つ想像力 栃木県総合教育センター所長 豊田 敏盟

トピック しつけ「キレる子」にしないために

子どもと読みたい一冊 「ぞうくんのさんぽ」

掲 示 板 読者の意見、県からのお知らせ

アンケート 「あそび」について

番組制作の現場から



NHK 番組制作局青少年こども番組チーフプロデューサー
坂上 浩子さんに伺いました

坂上 浩子

1980年NHK入社 ディレクターとして「いちにのさんすう」や大阪局「いってみようやってみよう」などを手がける。現在青少年こども番組チーフプロデューサーとして「にほんごであそぼ」を手がけている。

問 坂上さんは「にほんごであそぼ」の制作にかかわっていらっしゃいますが、番組を制作する際のねらいといったものはありますか。

坂上 大きなねらいは親と子のコミュニケーションを生み出すことと、子どもの中に感動などを溜め込んでいくこと、の2つでしょうか。

たとえば、子どもが番組を見た後で「じゅげむ」を口ずさんだとしめます。そこで、お母さんが「あら、覚えたの。すごいわね。お母さんにも教えて。」と、コミュニケーションが生まれて

いく。番組がそのきっかけになればと考えています。

よく、テレビに子守をさせるなといいますが、親は忙しいですから、子どもが一人でテレビを見ている状況はあると思います。でも、子どもが番組に感動して、共感を求めて親のほうを見たりしたときに、受け取ってあげられるといいのです。そういった親の共感が大切なのです。

また、「感動の溜めこみ」とでもいいですが、テレビを見ただけでなく、感動や楽しさ、驚きなどが子どもの中に蓄積されていく、たとえば



「おかあさんといっしょ」を見た後に体操をする、「にほんごであそぼう」を見た後に、ある場面で「ややこしや、ややこしや」と唱えてみる、そういう体験が頭や心への蓄積となっていてほしいと思っています。

それが後々、自分で「～したい、～を作りたい。」という能動的な遊びにつながっていくといいと思っています。

問 番組で扱わないように配慮していることはありますか。



坂上 登場人物をおとしめるような表現は避けています。たとえば、貧困だからといってその人の尊厳をおとしめるような表現や描き方はしないということです。

あと、子どもに大きなショックを残す暴力的、破壊的な映像は放送しないようにしています。テレビというものは制作の意図にかかわらず、幼児に与える影響に対してフォローができないという一面を持っていますから。

現代はタブー視されているテーマはないと思います。死や性についても年齢に応じた伝え方をしていくという流れになっていると思います。

問 時代の変化をどう踏まえて番組作りをしていますか

坂上 幼児も変化しつつある時代の中に生きています。シングルペアレントの子育てなど、ドラマの設定にも取り入れています。

また、分野はさまざまですが、時代の先端で活躍している方、たとえば音楽であったり、衣

装づくりであったり、伝統芸能であったり、そういった「旬な人」は時代の空気をつかんで発信する優れた能力があります。子どもは、本物、すごいものにはすぐに反応しますので、旬な人たちを番組に起用することで、時代のエネルギーをとりいれ、社会を子どもに伝えていくこともしています。

問 最後に、テレビ視聴に関しての親のかかりについてのお考えをお話してください。

坂上 お子さんがテレビを見るに当たって「これを見てはいけません。」と切り捨てることは簡単です。しかし、子どもがどんなことを面白がっているのか、なぜ面白がっているのかを知ることは、テレビ視聴に対して親が意見を述べる際の大切な要素となってきます。

情報化が進む世の中で、子どものメディアリテラシー（メディアを積極的に活用する能力）を伸ばしていくには、親の態度がモデルとなることを知っておいてほしいと思います。

子どものテレビ視聴についてお伺いしましたが、親がテレビをどのように視聴しているかが子どものテレビとのかかわりを決めるようです。テレビを囲んでの団欒も、こういった視点を持っていると、ちょっと変わってくるかもしれません。

アンケートの結果から

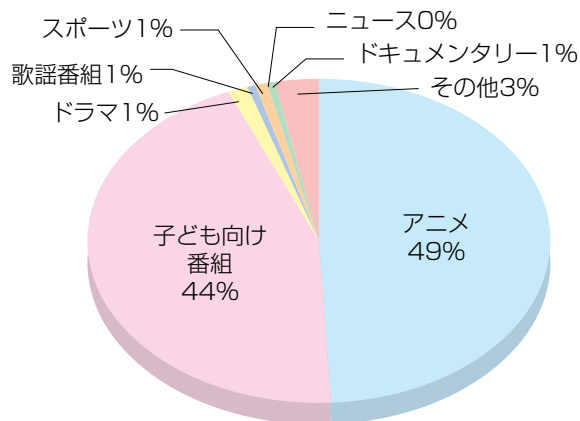
子どもが好きな番組

この年頃の子どもたちは現実と空想の世界を行ったり来たりしています。ですので、ヒーローが出てくるアニメの世界や、キャラクターへのあこがれを強くする時代といえます。十分にその時代を過ごさせてあげることが、以後、現実の社会に生きる力を培うことにつながっていきます。

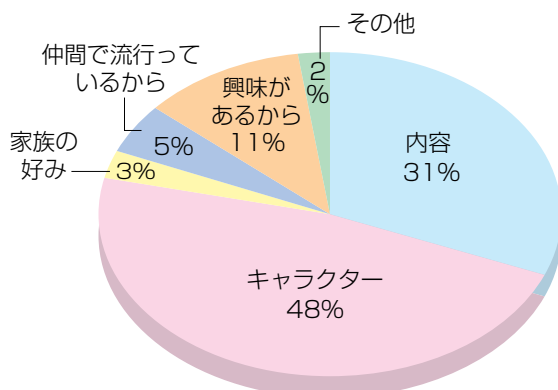
また、幼児向け番組は、幼児の発達特性を踏まえ制作されているものが多く、子ども自身が自然に体を動かしたり、歌ったり、話したりするようになっています。

できればお母さん達も一緒になって子どもの感動を共有してみませんか。

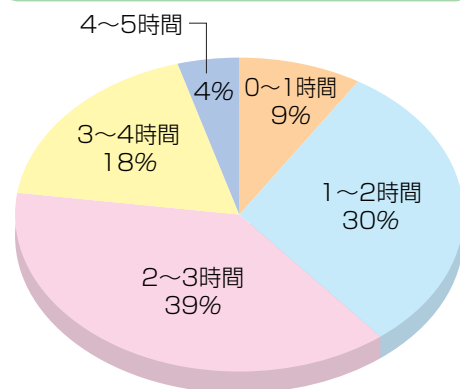
子どもが好きな番組



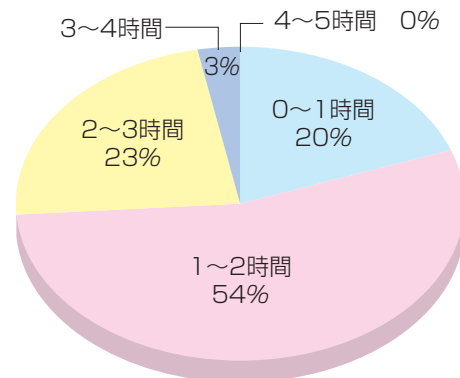
番組を好む理由



一日にテレビを視聴する時間



望ましいと考える一日のテレビ視聴時間



視聴時間

保護者の方が望ましいと考えている視聴時間より実際の視聴時間は1時間くらい多いようです。

家事や仕事をしている間にテレビに子どもの相手をしてもらうことはよくあります。その際、子どもがテレビを見て、話しかけてきたら、それは何らかの子どもの番組内容へのリアクションですから、子どものひとり言に終わらせないで、手を休めてそれに反応してあげましょう。できれば顔を向けて言葉を返してあげたいですね。

アンケートでの自由意見

- ◆ 病気の時
- ◆ 食事中
- ◆ 親が忙しいとき

どんな時 テレビを見せますか

- ◆ 天気が悪い時
- ◆ 好きな番組が始まった時
- ◆ やるべきことが終わった時

見せる時 どんな工夫を しますか

- ◆ 大人も一緒に見る
- ◆ 見た後会話を交換する
- ◆ 食事中は見せない
- ◆ 絵本を読んだ後、同じ内容のビデオを見る
- ◆ 学習能率の上がるものを見せる
- ◆ 見る時と見ない時のメリハリをつける
- ◆ 暗がりで見せない
- ◆ 音を大きくしない
- ◆ テレビから離れて見せる
- ◆ テレビは感動するものが少ないので、ビデオを借りてくる。

テレビを見せる時間も工夫の仕方も家庭によって様々ようです。

テレビの見せ方を考えることが自分の子育てを見直してみるいい機会になるかもしれませんね。



その他の意見

- ◆ 見ていない時でもテレビはついている
- ◆ 全く見せていない
- ◆ 子どもにビデオがほしいと言われるが、ビデオやゲームに子守をさせたくないと頑張っている。

☆読んでみませんか☆



「ゲーム脳の恐怖」

森 昭雄 著 NHK出版

- ・ テレビゲームの脳への影響を脳波計測データを解析し、明らかにしています。

「密室から子どもを救済せよ」

尾木直樹・三沢直子 共著 学陽書房

- ・ テレビやゲームにどう対応していったらいいか考えさせられます。

論 説

メディアで育つ想像力

栃木県総合教育センター所長 豊田 敏 盟



情報社会で生活する私たちにとって、子育てにおいてメディアを上手に活用することはとても大切なことです。ここでは私の体験を交えながら、メディアの有効利用について考えてみたいと思います。家族のエピソードを披露することはおこがましいのですが、お許しください。

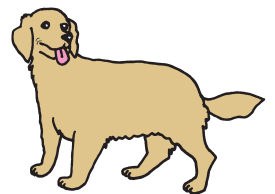


夢と感動をもたらす名作アニメ

私の娘が幼かった頃は、「アルプスの少女ハイジ」「フランダースの犬」「ペリーヌ物語」などのアニメがテレビ放映され、それを見るのが親子共々楽しみでした。両親をなくしたハイジが、山小屋に住む気難いおじいさんのもとで、明るくけなげに生きるさまは、美しい背景とあいまってとても感動的でした。ハイジが困難を乗り越えるたびに、また、大自然の中で花や動物と戯れる様子を見て、親子目を合わせ、胸を躍らせたものでした。一方、「フランダースの犬」では、さんざん辛い目にあった主人公・ネロが、ようやく村の人から彼の純粋な心を認められたにもかかわらず、家を追われ、すべてを失って教会にたどり着きます。そして、憧れのルーベンスの二枚の絵「キリスト降架」「キリスト昇架」に接し神に感謝しながら、愛犬

パトラッシュと共に天に召されることとなるのです。このラストシーンでは、涙する娘をどう支えたらよいか、やるせない気持ちになりました。

さて、現在、娘は嫁ぎ、三歳の女の子の母となりました。娘と孫はよく我が家に遊びに来ますが、決まって「アルプスの少女ハイジ」のビデオを持参しますので、親・子・孫一緒にこのアニメを見ることがあります。孫は食い入るようなまなざしで画像を追い、間をおかずハイジと同化してしまいます。娘は子どもをひざに座らせ、言葉かけをしながら感情を共有します。そばにいる我々夫婦は、孫と娘の瞳に映るハイジの姿を垣間見、二十数年前を思い出すのです。名作アニメは、時を超えても、夢と感動を与え、家族で楽しめます。



車の中で聞いた日本昔話

子どもが小さかったころ、我が家では年に何度か、車での小旅行を楽しみました。上の子二人が小学校中学年、三番目が幼稚園児であった時期には、信州や会津若松地方に出かけました。

三人の子どもたちは、いつも、出発時はおおはしゃぎなのですが、時が経つにつれ、飽きや疲れのため、会話が少なくなっていくます。そんな折、私はカーステレオに日本昔話のテープをセットするのです。

最初は軽やかな前奏曲が響き、その後「舌切り雀」「金太郎」「桃太郎」「はや太郎」などが、臨場感あふれた語りに効果音が加わって次々と流れ

てきます。子どもたちは、このテープをすでに何度も聞いていますので、それぞれのあらすじはわかっているのですが、神妙な面持ちで話の情景を想像し、愉快なところでは顔を見合わせ笑いながら聞き入っています。三人の頭に描く情景は、発達段階の相違からそれぞれ異なるのでしょうか、一人一人がとても楽しそうで、何度も何度も聞きたがるのです。

このような出来事から、耳から入ってくる御伽噺や音は想像力を高め、イメージを膨らませる効果があり、文字や映像がもたらすそれとは少々異なる趣があるのではないかと身を持って感じた次第です。

トピック

「キレル子」にしないために

Q マスメディアで取り上げられる青少年問題の中に、必ずといってよいほど「キレル子」が登場します。うちの子が将来そうならないかと心配です。

A 子育て真っ最中の保護者の皆さんにとって将来「キレない子」になってほしいと思うことは誰も同じことでしょう。「キレル」は「堪忍袋の緒が切れる」の「切れる」が→「キレル」となったのだと思いますが、そのことからすると、「キレル」のは「堪忍袋の緒」ということになります。「堪忍袋」という袋が実際にはあるわけではなく、その人が我慢出来るか出来ないかの問題になってきます。これは不愉快な感情を理性が働いて、いかに合理的に処理することが出来るか否か、ということですので「キレル子」は自分の感情をコントロールできない幼児の特性がそのまま残っている、ということになります。

では、どうしてこのような子が多くなっているのでしょうか。「堪忍袋」でお解りかと思いますが「堪忍する」＝“我慢する”ということになるのかなと思います。我慢できるかできないかは家庭



の生活習慣から身につけるもので、“我慢する”経験が日頃から無ければ当然出来ないことになります。また我慢できる性格がどのように作られるかも大きな問題になってきます。

子どもは周りから認められ、受け入れられている環境があって初めて自信をもって行動することが出来ます。それができて、次には友達を思いやったり冷静に物事を判断したりするゆとりが出てきます。

子どもにとって、いつも親をはじめとする周りから干渉されるような生活だったとしたら、自己発揮どころか無気力人間になったり、ストレスを溜め込んだりし、いつかはそれを爆発させることになるのでしょうか。

親が自分のイライラを子どもにぶつけてしまうようなことは言語道断といわざるを得ませんが、今の社会がストレスを溜めやすい状況にあることが、「キレやすい子」を多くしているように思えます。

このことを知った上で、保護者の皆さんは自分が「キレない親」を心掛ける子育てをしていただきたいと思います。



子どもと読みたい一冊



「ぞうくんのさんぽ」
こどものとも傑作集 福音館書店

重くたって一緒にいいな。
そんなぞうくんの思いに心もぼかぼかしてきます。

なかの ひろたか作・絵
なかの まさたか レタリング

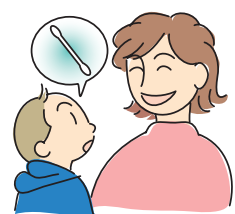
子どもの
つぶやき

めんぼう？

母 いいよ、めんどうだから

子 耳をきれいにするやつ？

母 それは綿棒





掲示板 読者の意見交流

これって教育？ この前5歳くらいの子どもがすごい勢いで泣きじゃくって「ごめんなさい、ごめんなさい、すいません」って言っているところを見ました。その隣には白髪のおじさんが声は大きくなかったものの、すごい剣幕で怒っていました。近くの本屋さんの前にいたのですが、店内に入っても普通に聞こえるような泣き声だったのでものすごく心配です。これって教育なのでしょうか。
(心配でたまらない読者さんから)

習い事について 習い事って絶対やらなければいけないことではないですよね。今の子どもたちはとても過密なスケジュールをこなしています。いろいろなことをやらせてみて、興味を持った習い事だけ続けさせるという考え方もあるかとは思いますが、高いお月謝を払って実にならないなんてもったいないと思いませんか。嫌ならやめればいくらいい考えで習い事をするならあまり意味がないと思うので、体験レッスンや体験教室等に連れて行って、興味を持ってそうなこと、楽しそうに参加していたものを選んでみてはいかがでしょうか。



習うのは親ではなく、子どもなのですから子どもの気持ちを尊重してあげてほしいと思います。あとは先生とのフィーリングも重要な要素なので、たとえば、お友達の習い事を見学させていただくとか、先生にお話を伺いに行ってみて、子どもの反応と先生の様子を観察してみてもよいと思います。

(2児の母兼音楽教室講師さんから)

募集

表紙や紙面に載せる子どもの絵や何気ないつづきを募集しています。幼稚園・保育所を通じて、又は直接幼児教育センターあて送付してください。なお、応募作品については返却できませんのであらかじめ御了承ください。

県からお知らせ

広報誌「おうち4号」に関する番組を放映します。

日時 平成16年3月13日 17:30~17:50

再放送 平成16年3月15日 12:10~12:30

家庭教育広報誌「おうち」第4号 平成16年1月発行

発行者 栃木県教育委員会幼児教育センター 〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7215 FAX 028-665-7216

URL: <http://www.edu-c.pref.tochigi.jp> e-mail: youkyou@tochigi-c.ed.jp



アンケート 「あそびについて」

- 1 お子さんの好きなあそびと、保護者として、して欲しいと思うあそびをお書き下さい。また、お子さんのクラスと兄弟の有無をお答え下さい。

お子さんの年齢に○をつけてください(兄弟別々に回答ください)

		3歳・4歳・5歳・6歳	3歳・4歳・5歳・6歳
お子さんが好む遊び	室内遊び		
	戸外遊び		
保護者として、して欲しいと思う遊び	室内遊び		
	戸外遊び		
兄弟の有無 (○をおつけ下さい)	上にいる		
	下にいる		

- 2 子どもの遊びについての自由意見

- 3 広報誌「おうち」についてのご意見・ご要望